

ご挨拶

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平

医療法人立川メディカルセンター2021年度学術活動・業績集をお届けします。

ここ2年半、当法人も通常医療・介護・福祉・医療人育成に加えコロナ対策に追われており、学術活動も滞り気味でした。2022年8月時点で社会経済活動が動き出しており、当法人も医療連携研究会を再開、学術活動も少しずつ進めていければと存じます。

昨年の本稿で「社会や世界が著しく変化している。これまで当然と思われていた様々な価値観も揺らいでいる。新たな試練が来た時に私たちはどう考えどう行動すべきかを常に準備しておく必要がある」と述べました。新型コロナウイルスに加えロシアの侵略戦争は終息が見えず、身近にも多大な影響が及んでいます。

「私たちはどう考えどう行動すべきか・・・」と言うは易し。どう考えるかと言えば「新型コロナウイルスは間違いなく自然の法則通りに動いている、ロシアの侵略は個人的には現時点で理解不能」でしょうか。どう行動すべきか、では「地域社会をしっかりと守り抜くこと」が遠回りに見えても私たちが出来る最も大切なことではないかと思っています。

近況です。新潟県の医師不足は全国最下位と言われる中、県外からの応援もありここ数年法人医師数は増加中です。職員の意気も上がり大変有難いことです。

本年1月悠遊健康村病院に新築した透析施設が始動、3月に長岡市東西道路が全線開通し市の環状道路網が完成、立川総合病院と悠遊健康村病院群が最短で結ばれました。

悠遊健康村病院の透析施設は通院困難例の受け入れが主目的ですが、立川総合病院とは信濃川を挟んでライフラインが別建てで、大災害時の透析事業継続体制が整いました。早速この8月、立川総合病院透析患者のコロナ感染予防の一環として同施設が役立ちました。

今後北陸道大積スマートIC～国道8号～東西道路が直結し、長岡版広域道路ビジョンに示す「中越地域の一体性を強化する東西軸」が整います。これにより柏崎厚生病院群とも最短で結ばれます。当法人としても大いに期待しているところです。

医学・医療に対する社会の意識が相当変化しています。医療現場は無数の選択の連続、時に振り返らなければ進歩はありません。ここに学術活動の意義があります。

昨今IT化により学術誌の多くが紙媒体から撤退しておりますが、本業績集は思うところあり、引き続き印刷物として発行していきたいと存じます。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどを切にお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。